

一酪農家における総合的な担い手支援の取り組みと課題

中丹家畜保健衛生所

○山内 幸 西井義博 加藤あかね 渡邊英史

【はじめに】 畜産農家の高齢化が進む今、畜産関係機関が若手後継者を育成し、経営安定に導くことが必要である。今回、18年度から経営移譲した若手酪農家で、関係機関が協力し、総合的な担い手支援を実施した。

【取り組み】 畜主の希望から、高泌乳の牛群づくりと良質堆肥生産を中心に19年5月から支援を開始。①飼養管理：飼料設計を見直し、給与量や給与方法を検討。カウコンフォートを重視し牛床を改善。②乳質改善：研修会で搾乳手順を確認、搾乳立会や乳汁検査から乳房炎対策（SA等）を実施。③生産性向上：定期的に繁殖検診を実施、早期発情発見の徹底。④堆肥化处理：新設のロータリー式攪拌機付堆肥化施設の適正な運用による良質堆肥の生産。⑤経営者としての自覚を養成。

【成果】 ①運動器病が12.5%から3.8%に減少、周産期疾病による死廃率が激減。②衛生的な搾乳作業に改善、乳房炎が減少。③発情の情報管理が徹底、受胎率が向上。④施設運用が軌道に乗り、堆肥の品質が向上、耕種農家への販路が拡大。⑤飼養管理や乳房炎対策への意識が高まり、経営者としての自覚が芽生え出した。

【今後の課題】 これまでの支援により酪農経営の基盤となる技術が確立。安定した経営に導くには、畜主自ら継続した取り組みが必要。今後は、指導するだけでなく、畜主の主体性を引き出す支援を行っていきたい。